



マイタウン井田川まちづくり委員会の防災マップ作成の様子

自分たちの力で進める地域づくり

本市では、「私たちのまちは、私たちの手で」をキャッチフレーズに、平成10年度から地域づくりの取り組みがスタートしています。今回の特集では、市内で行われている地域づくりの活動についてスポットを当てます。

地域づくりとは、子どもから高齢者まで、いつまでも笑顔で暮らせる住みよいまちをつくるため、住民の皆さんがそれぞれの特性を生かして、知恵と工夫をもって「お互いさま」の気持ちで取り組む活動です。そして、住みよいまちを実現するためには、それぞれの地域の課題などについて考え、その課題の解決や地域の活性化に向けて、

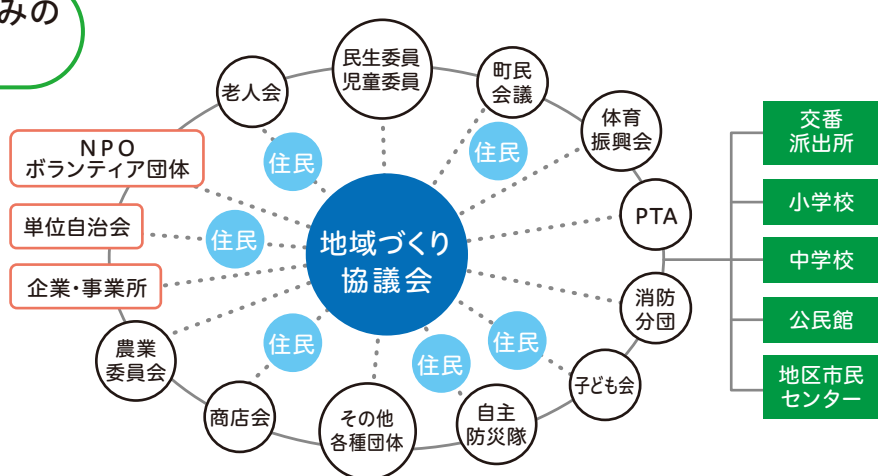
そこに住む人や団体が連携・協力することが大切です。

また、人口減少やニーズの多様化など、今後起こり得るさまざまな課題を解決するためには、行政だけでなく住民の皆さんの力が必要です。

本市では、「協働のパートナー」として、市内28の地域に設立された地域づくり協議会とともに地域づくりを推進しています。

互いにつながり、支え合う仕組みの「地域づくり協議会」

地域づくり協議会とは、住民、自治会やボランティア、PTAなどで構成され、相互の連携や話し合いなどにより、地域の課題解決や活性化を図る団体であり、地域内で活動する人や団体をつなぐネットワークです。



地域の特性を生かして活動する地域づくり協議会

市内に設立された28の地域づくり協議会。それぞれの協議会が地域の課題解決や活性化に向け、活動しています。ここでは活動の一部をご紹介します。

マイタウン井田川まちづくり委員会の取り組み

安全で安心なまちを目指す井田川地区。

災害時の避難に役立つ防災マップの作成に向け、まち歩きを行いました。

地域の危険箇所などの確認ができ、防災意識が高まるとともに地域の交流が図られています。



長太地区まちづくり協議会の取り組み

「地域の子どもの地域で見守る」を取組方針に掲げる長太地区。

共働き世帯の増加により、子どもの預かりへの需要の高さを感じ、夏休みに「子どもの居場所作り事業」を行いました。

宿題頑張るぞ〜!



庄野地区まちづくり協議会の取り組み

東海道の宿場町であった庄野地区。

庄野宿を広く周知したり、地域住民や旅行者たちが交流できたりする場としてコミュニティカフェ「庄野宿いっぶく処」を設置しました。



若松地域づくり協議会 長太地区まちづくり協議会 愛宕地域づくり協議会 鼓ヶ浦地区まちづくり協議会 白子地域づくり協議会 の取り組み

海に面する地域づくり協議会では、環境保全のために、定期的に海岸清掃を行うとともに、地域の住民同士の交流を図っています。

みんなで地元をきれいにしよう!



夢ある稲生まちづくり協議会の取り組み

地域内全世代の交流の場づくりの必要性を感じている稲生地区。

子ども食堂「稲乃屋」を開設し、子どもを中心としたさまざまな世代の交流が進んでいます。

楽しい! /



各地域で住民同士の交流の輪が広がりを見せています。皆さんの活動により地域づくりが進みます。私たちの力で住みよいまちにしていきたいと思います。

ほかにも、広報すずか20日号裏表紙で地域づくり協議会の取り組みを紹介しています。ぜひご覧ください。

地域と市などが

協働して

まちづくりを進めます

協働とは、多様な主体が共通の目的のために、役割と責任を分担して取り組むことです。

本市では地域と市などが協働しながら、取り組みを行っています。

国府地区「防災ワークショップ」



国府地区まちづくり協議会は、市と協働し、防災について考えるワークショップを開催しました。詳しくは、5ページをご覧ください。

一ノ宮地区乗合ワゴン



日常生活の移動手段の確保を目的に、一ノ宮地域づくり協議会・市・関係機関が協働して、令和3年1月から2年間かけて実証実験を始めています。

生活支援サービス「支え合いネットあいかわ」



合川地区地域づくり協議会では、地域の困りごとや課題を解決するため、生活支援サービスの取り組みを始めています。

本市では、「鈴鹿市まちづくり基本条例」を制定し、市民と協働して地域の課題解決に取り組む、「住民主体のまちづくり」を推進しています。

少子高齢化や大規模災害など、さまざまな問題に対応するためには、自助・共助・公助について考え、行動していくことが必要です。そのため、「私たちのまちは私たちの手で」という考えの下、それぞれの役割を認識しながら、市民と行政などが協働していくことが大切です。

市民と行政などがお互いをよく理解し、役割と責任の分担を認識した上でパートナー意識を持って、協働によるまちづくりを進めていきます。

本市が目指す協働のイメージ図



本市が目指す「協働」

地域の課題解決に向けて取り組む過程で、地域と市が役割と責任を分担したり、協力したり、話し合ったりしながら、どのように取り組むかを一緒に考える「協働」を目指します。

また、地域づくり協議会をはじめ市民活動団体やボランティア団体などと連携してお互いを補い合い、相乗効果の期待できる協働体制の構築を目指します。

協働により次のような効果を期待！

さまざまな団体同士などが連携や、情報交換・共有したりすることで新しいつながりが生まれるとともに、個々の団体の基盤強化が期待できます。

協働を通じて、市民一人一人が地域の課題などに関心を持ち、自発的にまちづくりに関わることで、住みよいまちの実現につながります。

地域と市が協働した活動をご紹介します

今後起こり得る大規模災害や自然災害に備え、現在、防災計画の策定を進めている国府地区。計画の策定に向け、市と協働して、国府地区の防災について考えるワークショップを開催しました。

このワークショップについて、国府地区まちづくり協議会会長の^{なかじまさちお}中島幸雄さんと安全・安心部会部会長の^{とよだながお}豊田長億さんにお話を伺いました。

国府地区

地域の課題解決に向けた取り組み

国府地区には防災計画がなかったことで、災害への対策が不十分でした。まずは、地域の方針となる「国府地区防災計画」を策定しようと、動き出しました。

地域の防災について考えるワークショップ

市の防災危機管理課と地域協働課の職員の方々と協働して開催したワークショップ。コロナ禍での開催だったため、参加者は自治会長、民生・児童委員、安全・安心部会メンバーと限定し、グループごとに「災害時・平常時に自分でできること（自助）・地域でできること（共助）」をテーマに話し合いました。



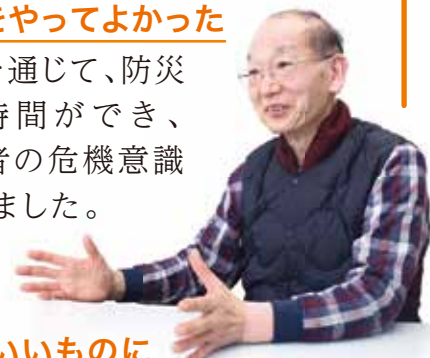
中島幸雄さん

問題点の洗い出しや参加者の考えを共有できたことで、たくさんの気づきがありました。職員の皆さんの協力で、効率的に取り組むことができました。

ワークショップをやってよかった

ワークショップを通じて、防災について考える時間ができ、結果として、参加者の危機意識の向上につながりました。

豊田長億さん



これからさらにいいものに

防災計画策定後には、計画をもとに、各自治会でより実情に合った具体的なマニュアルを作成してもらい、ご近所同士で助け合えるような声掛けをしていけたらいいと思っています。災害時には、自助・共助はもちろん、共助をさらに身近に表した「近助」が必要です。「近助」とは私たちが使っている言葉で「ご近所同士で助け合う」という意味です。助け合うコミュニティが細かければ、災害時の動きがより具体的で明確になります。

災害による被害を最小限にとどめるためにも自分たちに合ったより具体的な「自分たちの防災計画」を作っていきたいと思っています。

市内28の地域づくり協議会では、地域の特色を生かした28通りの活動を行っている中で、新型コロナウイルス感染症の影響により、活動を制限せざるを得ない状況が続いています。このような時代だからこそ、「つながり」を意識した活動が重要になってきます。

住みよいまちをつくるため、地域づくり協議会と市は、協働のパートナーとして地域の課題解決に向けて、地域ができること、市ができることを話し合い、役割分担をしながら、一緒に取り組んでいきます。



地域振興部長 さかもとえつこ 坂本悦子

今回の特集に関するご意見・ご感想は

地域協働課 ☎ 382-8695 📠 382-2214 📧 chiikikyodo@city.suzuka.lg.jp